

野菜

実 況…(27年9月20日現在)

1 施設野菜

果菜類

(1) トマト

福井、坂井地区では、7段果房が開花中で1～2果房が収穫中となっている。若狭地区の8月中旬定植では、1段果房が開花となっている。

うどんこ病が中発、葉かび病が少発、灰色かび病が少～一部多発、トマトサビダニ、コナジラミ類が少～中発、アザミウマ類、オオタバコガ、ハモグリバエ類が少発である。

(2) ミディトマト

南越、奥越地区の夏秋栽培は、気温の低下とともに出荷量は減少傾向にあるものの、継続出荷中である。県内の抑制栽培は、6月中～下旬定植が4～6段果房を収穫中となっている。

若狭地区の促成長期どり栽培では、高浜町が月2日から、小浜市で9月14日から収穫開始となっている。

うどんこ病、灰色かび病、葉かび病が少～中発、白絹病が一部少発、オオタバコガ、トマトサビダニが少～中発、コナジラミ類が微～一部中発である。

(3) アールスメロン

抑制アールス系メロンは、三里浜砂丘地で9月2日から、坂井北部丘陵地では9月12日から収穫が開始されており、果実の大きさは三里浜砂丘地が2L中心、坂井北部丘陵地が3～2L中心となっている。

うどんこ病が少～中発、べと病が微～局中発、つる枯れ病が多発、黒点根腐病が局中発、ハダニ類が微発である。

(4) キュウリ

福井、南越地区は、9月初旬から収穫開始で現在側枝を収穫中である。若狭地区では、継続収穫中である。

べと病、うどんこ病、褐斑病が中発、ウリノメイガが少発、コナジラミ類が一部少発である。

(5) イチゴ（高設）

各地区の自家育苗および購入苗は、9月上～中旬にかけて順次定植作業が行われている。

(6) スイカ

坂井北部丘陵地は、7月下旬定植の小玉スイカが9月2日～収穫開始されている。果実は小玉傾向だが、糖度は12～13度と良好である。ハダニが一部多発である。

葉根菜類

(1) 軟弱野菜

福井地区のハウレンソウは、8月中～下旬播種を30～40日前後で収穫中である。

(2) ネギ

坂井北部丘陵地は、6月下旬定植(スイカ後)の早いもので地上部草丈45～60cm、葉鞘径

が10～13mmの生育となっている。

ヨトウムシ類が少発、シロイチモジヨトウが中発、ハモグリバエ類が多発である。

2 露地野菜

果菜類

(1) ピーマン

福井、丹生地区は、4月下旬定植が草丈110～120cmで18～24番果を収穫中、5月上～中旬定植が草丈80～110cmで10～14番果を収穫中である。

青枯病が微発、疫病が一部少発、アブラムシ類が微発である。

(2) キュウリ

丹生地区のキュウリは、9月中旬で終了した。若狭の加工キュウリは9月上旬で終了した。

(3) ナス

奥越地区は気温の低下とともに収穫量は少なくなってきたが継続出荷中である。

うどんこ病、褐色円星病が少～中発、オオタバコガ、アザミウマ類、ハダニ類、カメムシ類が微発である。

葉菜類

(1) ネギ

奥越地区は、4月上旬定植が収穫中である。県内の4月中～下旬定植は、地上部草丈70～85cm、葉鞘径が25～35mmとなっている。5月上旬定植で地上部草丈60～75cm、葉鞘径が20～25mm、5月下旬定植では地上部草丈65～72cm、葉鞘径が16～24mmとなっている。6月中旬定植は、地上部草丈60～78cm、葉鞘径が15～20mmとなっている。

さび病が微発、葉枯病、軟腐病、萎凋病、黒斑病が少～中発、白絹病が中～多発、アザミウマ類が少～中発、シロイチモジヨトウが少～中発、ハスモンヨトウが少発、ハモグリバエ類が少～多発である。

越冬春どりは、奥越地区では地上部草丈35～45cm、葉鞘径が5～8mmとなっており昨年より生育量は小さく推移している。

ハモグリバエ類が少～中発、アザミウマ類が少発である。

(2) ブロッコリー

南越地区は、7月下旬定植が花蕾が3cm程度になっている。若狭地区では、7月下旬～8月上旬定植が本葉8～12枚となっている。福井地区では8月上旬定植が本葉19～20枚、8月下旬定植が本葉10～14枚となっている。

黒腐病が中発、ハスモンヨトウが微～局多発、シロイチモジヨトウが少発である。

(3) キャベツ

坂井北部丘陵地は、7月中旬定植が9月末から収穫開始の予定となっている。福井地区では、7月下旬定植が、生育の早いもので結球終期(球径20～25cm)となっており10月上旬から順次収穫開始の予定である。県内の7月末～8月上旬定植では、球径7～15cmとなっている。また、8月上～中旬定植では、本葉18～19枚で結球初めとなっている。

シロイチモジヨトウが微発、タマナギンウワバ、ヨトウムシ類が微～少発、アオムシ、ハス

モンヨトウが微～一部多発である。

(4) タマネギ

永平寺町は、9月5～25日に播種がおこなわれた。

(5) アスパラガス

福井地区は、27年定植が立茎5～12本、草丈130cmとなっている。

アザミウマ類が微発である。

根菜類・いも類

(1) ダイコン

播種開始が三里浜砂丘地は8月15日から、坂井北部丘陵地では8月17日から行われており、生育の早いもので抽根始めとなり、10月中旬から収穫予定である。

カブラハバチが微発である。

(2) サトイモ

奥越地区は葉柄長が120cm、生葉数3～5枚となっており草丈は平年よりやや小さい。伸長停止期は8月末～9月初旬で平年並みとなっている。9月中旬の試し掘りでは、着生芋数は昨年より多く、小玉傾向となっている。

汚斑病が中発、ハスモンヨトウ、アブラムシ類、ハダニ類が少発である。

(3) カンショ

坂井北部丘陵地は、8月17日から出荷開始されており、イモの肥大は良好となっている。丹生地区では、9月5日から収穫開始で収穫中となっている。

立枯病が少発、ナガジロシタバが少発である。

(4) ニンジン

坂井北部丘陵地は、7月中～下旬播種が肥大初期となっている。三里浜砂丘地では、8月中～下旬播種が生育の早いもので本葉7枚となっている。

キアゲハ、ヨトウムシ類が少発である。

(5) ラッキョウ

植付開始が1年掘りは8月中旬から、3年子では8月下旬から順次行われている。苗立ちは平年より良好である。

(6) ショウガ

福井地区は、草丈80～100cm、立茎9～12本、葉数9～12枚となっている。

アワノメイガが少発である。

対 策

10月の気温は平年並または低いと予報されている。なお、降水量や日照時間は平年並みの予報から引き続き病害虫の発生が予想されるため、病害虫の発生状況に留意しながら適切に農薬散布を行うとともに、施設栽培においては気象変動や生育に応じた肥裁管理、水管理を徹底する。また、台風の襲来や大雨が予想される場合には、事前に十分な暴風対策や排水対策等を講じておく。

1 施設野菜

果菜類

(1) トマト

保温目的にハウスを密閉にする場合、隙間なく密閉状態にするとハウス内が過湿になり、病気や裂果の発生を助長するので、夜間であっても少しサイドを開けて換気を行う。ただし、最低気温が10℃を下回るようになる頃（10月下旬）からは裂果が発生しやすくなるので注意する。裂果の発生原因には、①多かん水等により水分や肥料分が急激に吸収される、②秋雨などが続いて過湿状態になる、③日中と夜間の温度差が大きい、④草勢の低下等がある。このことから、①かん水は控えめにする、②ハウス内を過湿状態にさせない、③極端な温度格差を避け保温に努める、④根張りが良く草勢バランスの良い元気な樹に育てること等が大切である。また、葉かび病、灰色かび病、ハモグリバエ類、コナジラミ類等の初期防除を徹底することが大事となる。

(2) ミディトマト

ハウス周囲からの雨水の浸透や空気湿度の極端な格差によって裂果の発生が多くなるため、圃場排水を徹底し、ハウス内を過湿にしない。また、最低気温が10℃を下回るようになる頃（10月下旬）からは特に裂果が発生しやすくなるので多灌水をしない。空気湿度の極端な格差を避け夜間の保温に努める（トマトの欄を参照）。また、葉かび病、トマトサビダニ、ハモグリバエ類、アザミウマ類等の防除を徹底する。

(3) メロン

ネット完成後は徐々にかん水を控えて、土壌水分、空気湿度の低下を図り、糖度の上昇と2次ネットの発生、2次肥大、つる枯れ病の発生防止に努める。なお、収穫期に達した果実は降雨や夜温が高くなった日に裂果しやすくなるので、天候を見ながら適期収穫に努める。

(4) キュウリ

成り疲れによって、収穫量の減少や果実品質の低下を招きやすくなるので、かん水や追肥は遅れないようやや早めに行う。また、不良果の早期除去による品質の向上と適期収穫に努める。なお、べと病等の発生を防止するため、枯れ始めた葉等の摘葉やハウス換気を徹底し予防散布を行う。

(5) イチゴ

新葉の展開が早いため老化した葉や発生したランナーは早めにかきとる。ただし、下旬以降は新葉の展開が遅くなるため、黄化した葉や枯れ葉をかきとる程度にする。また、最低気温が12℃以下（10月下旬以降）になれば、夕方ハウスを閉めて保温を行う。開花始めにはミツバチ等を導入する。導入後は、ミツバチ等に影響の少ない薬剤を用いうどん粉病等の防除を行う。

葉菜類

(1) 軟弱野菜

ホウレンソウ、コマツナは10月中に播種する場合にはまだ気温が高いことから、葉が伸びすぎないように株間をやや広めにし、ハウス換気を行う。特にホウレンソウはべと病の発生しやすい時期になるので、抵抗性品種を利用し、ハウス換気を行う。また、病害虫の早期防除に

努める。

2 露地野菜

果菜類・豆類

(1) ナス、ピーマン

気温が低下して生育が緩慢になるので強い整枝や摘葉は避け、追肥や病虫害防除を徹底して草勢の維持、肥大の確保を図る。

(2) 一寸ソラマメ

播種が早すぎるとウイルス病にかかりやすくなるので10月10日～15日頃に播種する。なお、過湿になりやすい圃場での直播は種子が腐敗しやすいので行わない。ポリ鉢、セルトレイ等に播種し20日程度に育苗した本葉1～2枚頃の若苗を植付ける。

葉菜類

アブラナ科野菜は、大雨や降雨が続くと軟腐病・黒腐れ病等の病害発生が心配されるので、あらかじめ銅剤などによる予防散布を行っておく。なお、発生が見られた場合には、晴れ間を見て早期に散布する。

(1) ブロッコリー

出蕾後2週間程度で収穫できる。収穫が遅れると花蕾のゆるみが進み品質が低下するので注意する。なお、花蕾に夜露等がある場合は良く振ってから箱詰めする。

(2) キャベツ

収穫適期を過ぎると裂球が発生しやすくなるので、収穫遅れにならないよう注意する。秋まきキャベツは、品種特性を考慮しながら播種を行う。YR春空では10月5日～15日、SEでは10月15日～20日が播種適期となっている。早期播種や多肥等によって生育が進みすぎると抽台の原因となるので注意する。また、越冬時の排水対策は十分に講じておく。

(3) ネギ

最後の土寄せは、収穫予定日から逆算して行う。10～11月収穫では、収穫30日前までに完了しておく。最終土寄せは、葉鞘径は25mmくらいのときに追肥散布後に行う。緑と白の境界をはっきりさせるため、株元に隙間が出来ないように丁寧に行う（軟白確保のため）。

なお、収穫が遅れると、ネギが伸びて棒ネギになるので注意する。収穫時は、出来るだけ圃場が乾燥するように努め、実施している排水対策についても溝が埋まっていないか等再度確認する。

根菜類・いも類

(1) ダイコン

収穫が遅れると品質低下の原因になるので、播種後55～65日頃、根径が6～7cm程度になった頃を見計らって収穫する。

(2) サトイモ

圃場を乾燥させ収穫作業をしやすくするため事前に排水対策を講じておく。親ズイキが2本程度になり黄化してきた頃が収穫適期となる。収穫作業は、晴天日の午前中に株の掘り起し、

子いもの取りはずしを行う。付着の土はできるだけ落とし収穫する。3～4時間乾燥してから根取機にかける。また、種いも用に優良株を選抜しておく。

(3) ニンニク

10月中旬頃までに種球を植付ける。種球が小さいと大球が得られず、大きすぎると分球して品質を悪くするので10g程度のりん片(種球)を用いる。種球は10a当たり200～250kg準備し、乾腐病防除のため種子消毒を行なう。

(4) タマネギ

土壌水分が低く圃場条件の良好な時に圃場準備を行う。定植時期は10月下旬～11月上旬が適期となる。定植苗は、小苗は肥大が悪く大苗は抽台が多くなるので、長さが25cm、茎の太さが6～8mm程度の苗を選別して定植する。植え付は苗の新葉部が埋まらないように行う。定植後2週間程度経過し、活着を確認したら除草剤を散布する。

(5) ラッキョウ

分球期に入り、同時に翌春の分球芽が形成されるので追肥を行なって生育を促す。また、気温が低くなる下旬頃に白色疫病の防除を行う。